

本研究は、訪日外国人のレンタカーによる高速道路利用促進を目的に、諸外国で紹介されている日本のレンタカーや交通事情の現状を把握するとともに、レンタカーを利用した旅程計画に有効な情報コンテンツについて考察した。

訪日外国人のレンタカーによる高速道路 利用促進策に関する基礎的研究

佐藤 大介*
野中 康弘**

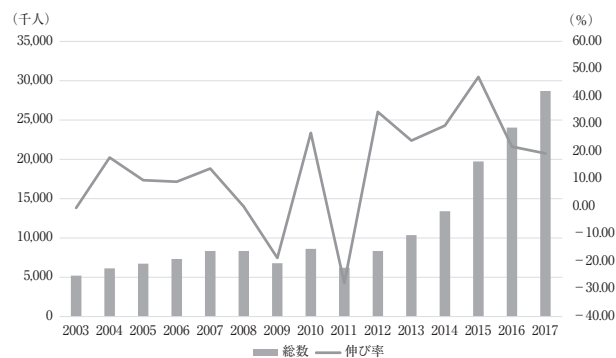
はじめに

観光立国を掲げて2003年度に始まったビジット・ジャパン事業により、訪日外国人旅行者は年々増加し、2018年の訪日外国人数は3,000万人に迫る勢いにある。しかし、いわゆるゴールデンルートと呼ばれる主要観光地や、公共交通機関の充実した地域以外への波及効果は、限定的と言わざるを得ない。この要因は地域の魅力的な観光資源の情報発信不足はもとより、交通手段確保の問題も大きいと考えられる。

これに対して、国土交通省では「訪日外国人旅行者の増加等に関する自動車関係者との意見交換会」において、バス・タクシー・レンタカー業界等との協議を進めている。また、観光立国推進閣僚会議は「観光立国実現に向けたアクション・プログラム2014」の中で、レンタカーの利便性向上に関して、空港ターミナル内のレンタカー営業所の設置や貸渡車両までの動線の改善、ワンウェイシステム利用時の乗り捨て手数料の割引制度導入を促進する⁽¹⁾としている。レンタカー会社では、ガイドブックの多言語対応をはじめ、外国人旅行者向けのドライブマップや外国人運転用ステッ

カーの配布等に取り組み、高速道路会社においても周遊割引や乗り放題パス等に取り組んできている。しかし、これらはいわば『水際』での対策であり、諸外国（自国）での出発前において、訪日時にレンタカーを用いて高速道路を利用しようとする旅程計画を立案する動機には、直接的に結びつかないものが多い。

そこで、本研究は訪日外国人のレンタカーによる高速道路利用促進を念頭に、諸外国（自国）で情報収集可能な日本のレンタカーや道路交通事情の現状を把握するとともに、旅程計画時におけるレンタカーや高速道路利用の選択・非選択要因を分析し、諸外国に対してガイドブックやWeb等、日本の情報を発信する各種媒体へ提供し得る情報コンテンツを整理することを目的とした。



図一 訪日外国人数の経年変化

* (株)東京建設コンサルタント道路交通部 部長代理
** (株)道路計画 常務取締役

1. 研究内容

本稿では、まず訪日外国人のレンタカーの利用動向と利用促進策に関する現状を既往文献や Web 情報等からレビューして第 2 章に整理する。第 3 章では、諸外国において情報収集可能な日本のレンタカーや道路交通事情の現状について、賃借方法、利用料金（料金割引）、交通ルール、運転マナー等の観点から整理する。第 4 章では、訪日外国人を対象にアンケート調査およびヒアリング調査を実施し、母国で得られる日本でのレンタカー利用方法や道路交通に関する情報、レンタカーを利用する際の意思決定要因等について整理する。第 5 章では、上記の調査結果を受けて、訪日外国人の旅程計画時におけるレンタカー利用や高速道路利用の選択要因や非選択要因（抵抗要因）について考察する。

2. 訪日外国人のレンタカーの利用動向と利用促進策に関するレビュー

(1) 訪日外国人旅行者の推移等

訪日外国人は、ビジット・ジャパン事業が始まった 2003 年が約 500 万人であったのに対し、2017 年は約 2,900 万人へと大きく増加している。2017 年の内訳をみると、87% がアジア圏で圧倒的に多い⁽²⁾。なお、ジュネーブ条約加盟国では 70% となっている。

次に、これら訪日外国人が日本でどのような交通手段を選択しているか知るため、FF-DATA（訪日外国人流動データ）を確認した⁽³⁾。地域別のレンタカー利用状況に着目すると、沖縄が 33%、四国が 15%、九州が 10%、北海道が 6% の順で、関東・近畿の大都市圏は 2% 程度となっている。各地域の観光資源の立地やツアー旅行のあり方、交通手段としてバスや鉄道網の充実具合等により、地域差が出ていると考えられる。

(2) 訪日外国人旅行者のレンタカー・高速道路の利用状況

訪日外国人旅行者のレンタカー・高速道路の利用状況について、既往文献や Web 等で十分な情報が得られなかったため、レンタカー店舗の職員を対象に、ヒ

アリングを実施した。対象の店舗は、関東地方において訪日外国人旅行者のレンタカー利用が多い成田空港と河口湖の店舗とした（後述する利用者アンケート調査を実施した店舗）。

成田空港レンタカー店では、1 日の訪日外国人の利用が 20～30 組で繁忙期は 80 組の利用があり、70～80% が高速道路を利用している。利用者の 50% 以上が 10 回以上の利用であり、訪問先は利用回数が多い人ほど温泉地やフラワーパーク等の日本人があまり行かないところを好む傾向にある。これは、訪日回数が少ない場合は有名な観光地を訪問するが、回数が多くなるにつれ季節に応じた場所を選択するため多様化していることを示していると考えられる。また、成田空港店では、他県を跨り捨て利用が多く、旅程の一部でレンタカーを組み込んでいる。訪問先は、ガイドブックや Web 等による情報への依存が高いことが推測され、これら情報媒体に回遊性の高いレンタカー利用や高速道路割引の情報を組み込むことが重要となる。

一方、河口湖店では、1 日の訪日外国人の利用が 6～7 組で繁忙期は 30～40 組の利用があり、50% が高速道路を利用している。レンタカーの利用回数は初めて、もしくは 2～3 回目が大半を占め、リピーターのほとんどは北海道や沖縄での運転実績がある。利用範囲は富士山周辺、御殿場となっており、空港と観光地のレンタカー店舗では利用のされ方が異なっている。

(3) 高速道路利用促進策の現状

NEXCO 3 社では地域限定の割引を 2008 年より販売し、2017 年からは全国に範囲を拡大した Japan Expressway Pass（以下、「JEP」）を販売する他、高速道路のナンバリング、案内表示板や SA・PA における多言語表示に努める等、高速道路利用促進策を実施している⁽⁴⁾。

ここで、成田空港レンタカー店舗職員へのヒアリング結果を述べる。JEP を便利と思申し込むものの、首都高速道路が対象範囲に含まれていない等エリアを把握できていないため、ほとんどの方が追加料金を支払い、走行距離より割高になっているケースが多く、うまく利用できていない。また、レンタカー会社も、追加料金把握のため ETC の通行履歴から利用した高

速道路を確認する必要があり、積極的に勧められない等の実態がある。

今後は、NEXCO 3社以外に対象エリアを増やすことや、複数の代表出発地からの割引エリアを活用した観光地までのモデルルートを示すことが重要であると考ええる。

3. 諸外国において情報収集可能な日本のレンタカーや道路交通事情の現状調査

(1) Web 情報の整理

ジュネーブ条約による国際運転免許証が発行可能な国のうち、台湾、韓国、香港、シンガポール、アメリカ等を対象に、旅程計画で重要と考えられる移動手段の紹介のされ方について調査した。代表的な Web サイトは「Japan Guide」であり、欧米、アジア諸国から幅広くアクセスがある。「Japan Guide」は JR 情報、レンタカー情報、高速道路情報が豊富であり、NEXCO 3社の割引について掲載があった。⁽⁵⁾台湾旅行者のアクセスが多い「樂吃購日本」ではレンタカー情報、高速道路情報が少ない。割引については高速道路の周遊割引（地域別）の記載はあるものの、JEP に関する記載はなく、最新情報に更新されていない。

一方、レンタカー利用の多い香港の方が見る中国の情報サイト「日本漫遊」では、レンタカー情報、高速道路情報が豊富であったが、JR の割引については掲載があるものの、高速道路割引についての掲載はない。

(2) 諸外国でのガイドブックの整理

ガイドブックは、Lonely Planet が代表格であることがわかった。このガイドブックは、言語こそ異なるが、多くの国で販売されている。

鉄道に関する記載は、速度、頻度、清潔さ、快適さで世界有数と紹介され、国内の広範囲を対象にした新幹線も乗車可能な japan rail pass や JR 各社の乗り放題パス、金券ショップ等の割引情報を含め充実している。

一方、自動車に関する記載についてみると、高速道路は費用はかかるが、早く効率的でネットワークは拡大し続けていると紹介されている。1キロ当たりの通行料金と東京～京都間を例とした通行料金の記載はあ

るものの、割引情報の記載はほとんどない。また、高速道路の料金は、「ドラぶら」サイトにアクセスし、目的地の漢字を切貼りできれば計算でき、西日本および九州は高速道路料金表が英語で掲載されていることが紹介されている。割引は、ETC で最大 30% であることが紹介されているものの、他の割引情報は一切記載されていない。鉄道に比べれば、情報が偏っている印象である。

道路法規については、JAF 発行の『交通の教則』英語版が役立つガイドブックとされている。この他、レンタカーの賃借方法やカーナビの目的地入力方法、日本人の「運転の悪い癖」として「車線変更時や、交差点の左折時でウイカーを出すのが遅い」等も紹介されているが、旅程計画においてレンタカー利用を誘発する情報となっていない。⁽⁵⁾

4. 訪日外国人のレンタカーや高速道路利用に関する意識調査

(1) 意識調査の概要

意識調査は、レンタカー店舗でのアンケート調査と、留学生を対象としたヒアリング調査により実施した。

アンケート調査は、レンタカー利用者を対象に成田空港、河口湖のレンタカー店舗、非利用者を対象に河口湖駅前平成 30 年 5 月に実施した。成田空港店のレンタカー利用者はサンプル数 N=11 で、利用者は香港が 38%、台湾が 25%、約 90% がアジア地域であり、河口湖店はサンプル数 N=5 で、約 80% がアジア地域であった。河口湖駅前はサンプル数 N=39 で、約 70% がアジア地域、30% が欧米地域であった。

ヒアリング調査は、レンタカー利用をしたことのない日本の大学に在学する留学生を対象に平成 30 年 5 月に実施した。サンプル数は N=12 で、70% がアジア地域、30% が欧米地域であった。

(2) アンケート調査結果

レンタカー利用者の選択理由は「時間を気にせず自由に観光ができる」、「周遊するために必要だから」、「荷物が多いから」、「他の交通手段より安いから」の順となっており、同一行動の旅行者人数はレンタカー

利用者が3.6人に対し、非利用者は2.5人となっている。レンタカー情報の入手方法は、知人・家族、レンタカー会社のHPが主であり、SNSからの情報入手は少なかった。

高速道路利用での課題についての設問では、「通行料金が安い」が群を抜いており、「特に問題はない」との回答も多かった。高速道路料金は、アジア地域で基本無料の国もある中で、韓国や台湾と比べても約6～8倍も高く料金に対する抵抗も大きい。

他交通機関との代替性を有する河口湖駅前におけるレンタカー非利用者へのアンケート調査では、旅程計画時にレンタカー利用を考えたのは10%と少なかった。レンタカーの非選択理由としては、「他に良い交通手段があったから」が群を抜いており、ほぼ同数で、「交通ルールが難しい」、「情報が少なく利用自体を想定していない」、「資格はあるが国際免許を保有していない」との回答があった。

(3)ヒアリング調査結果

レンタカー利用は1名が沖縄での経験があり、ほとんどの方は利用実績がない。レンタカーを利用しない理由は「鉄道・高速網が充実している」、「鉄道・バスの情報が入手しやすい」、「国際免許の取得方法がわからない、難しい」との意見があった。

日本で旅程計画を立てる際の訪問先の決め方は「公共交通が充実している場所」、「JRの割引切符使用を想定し、対象範囲内で行き先を考える」の2つが大半を占めた。また、移動手段も鉄道利用を中心としている方が92%で、レンタカー利用は利用実績のある方のみとなった。レンタカーを利用するのと来訪回数との関係は「わからない」がほとんどで実態が伴わないと回答ができなく、レンタカーを利用する場合は、公共交通網の充実していない箇所への訪問か、複数人数で安価となる場合に限定した回答となった。

5. 訪日外国人のレンタカーや高速道路利用の選択要因に関する分析

(1)レンタカー利用や高速道路利用に求めるサービス 訪日外国人が多く来訪する富士山の玄関口となる河

口湖周辺部で鉄道、高速バス等の交通結節点となっている河口湖駅前で行ったレンタカー非利用者へのアンケート調査では、レンタカー利用に求めるサービスの問いには「レンタカーの割引」、「高速道路の割引」、「カーナビの多言語化」、「高速道路の利用案内動画」、「モデルルートの案内」の回答順となった。年齢層で見ると、割引は全世代共通であるが、利用動画やモデルルートの案内は50代が40%となっており、高齢になる程、情報に対する要求が高くなる傾向がある。また、カーナビの多言語機能は、すでに英語、中国語、韓国語に対応しており、このような情報も認知されていない。

一方で「サービスを変えても利用しない」との声が多かった。その理由としては「電車が便利」、「電車以外利用したくない」となっている。しかしながら、河口湖におけるJR割引切符の使用率は40%である。これらは、ガイドブック等の日本における交通手段の紹介のされ方が影響しているものと考えられるものの、JR割引切符の使用率よりレンタカー利用に対する不安等の抵抗が大きいものと推察できる。

(2)レンタカーや道路交通事情に対する潜在的イメージ

日本の大学に在学する留学生に、成田から茨城、東京、山梨、長野、石川、京都、関西空港を2人で7日間周遊することを想定し、交通手段の料金、所要時間を示した上で、交通手段の選択と要因について調査を行った。

交通手段の選択は、電車と路線バスや高速バスの組合せが92%、レンタカー利用は8%となった。電車移動を選択した理由は「日本の交通ルール（左側通行）に不安がある」、「慣れない道での運転に不安」、「レンタカーは料金が高い」、「高速道路の渋滞が不安」との回答順となった。

どのような条件であればレンタカーを利用するかの問いには「3人以上の旅行で移動費が安価となる場合」、「短距離利用」、「カーナビのさらなる多言語化（インドネシア、タイ）」となった。長距離運転は疲れることや、駐車場の料金や有無も不安要素となっている。

レンタカー利用は「国際免許の取得方法がわからな

い」との意見はあるものの、経済的余裕があれば、需要拡大の可能性はある。しかし、JRの割引切符の認知率は58%であり、高速道路の割引認知率は0%であったことを踏まえると、レンタカー利用を選択する要素が少ないことが明らかである。

(3) 高速道路利用を促進するためのコンテンツ

以上より、レンタカー、高速道路の利用促進を図るためには、料金割引と周知、高速道路の利用動画(ETCゲートの紹介、走行時の注意点含む)、割引路線を活用したモデルルートの案内や鉄道との料金比較、現在有するHPの料金等の一部英語化等の情報コンテンツが重要である。

6. まとめと今後の課題

本研究は、訪日外国人の高速道路利用促進のため、レンタカー店舗へのヒアリング、レンタカー利用者と非利用者に対しアンケートを行い、交通手段の選択理由やレンタカーの非選択理由を把握し、利用促進に資する情報コンテンツを整理した。

訪日回数により、目的地や利用交通手段が変化することや、割引や有効な情報提供があれば潜在的利用者を掘り起こすことが可能であることが確認できた。

今後、さらに増加する訪日外国人により、レンタカー利用が増加すれば、混雑路線の渋滞悪化や交通事故の増加も懸念される。時間的・空間的に効率的な高速道路利用を想定し、これに外国人が好きな観光資源を組み合わせることで、需要をコントロールすることが重要であり、これによって非混雑区間の需要拡大を図ることも可能となる。このためには、訪日外国人が好む観光資源と高速道路の渋滞予測や所要時間を組み合わせた情報提供が重要であり、モデルコース紹介も通行を避けるべき曜日や時間帯の提供によるTDM施策も必要となる。

一方、JEP等の割引はNEXCO 3社以外も対象エリアを増やすことや、レンタカー店舗のETCカード確認作業の簡素化が課題であると同時に周知方法も工夫が必要である。鉄道利用者からのシフトを考慮すると高速道路内やレンタカー会社を含むWebだけでは認

知率は向上しない。リピーターが多いことを考えれば、次回の利用を目指した空港等における情報提供も重要である。

旅程計画は、大まかな目的地、移動手段を決定した上で選定している。JRの割引切符利用者はその利用範囲を有効に活用した旅程計画を行っているが、高速道路利用者は、JEPの利用や有効活用している方が少ない。今後は、旅程計画の中で高速道路利用のニーズが高まるように、レンタカー利用に対する不安を除外する情報の提供と、認知率向上に資する情報提供方法のあり方を検討する必要がある。

謝辞

本研究は、公益財団法人高速道路調査会の研究助成を受けたものです。ここに記して感謝の意を表します。

また、今回の調査で協力いただいたトヨタレンタカー成田空港店、河口湖店の職員の皆さまに感謝を申し上げます。

参考文献

- [1] 観光立国推進閣僚会議、「観光立国実現に向けたアクション・プログラム2014」, http://www.mlit.go.jp/kankocho/topics02_000075.html
- [2] 国土交通省観光庁、『統計・情報白書』, <http://www.mlit.go.jp/kankocho/siryu/toukei/syouthityousa.html>
- [3] 国土交通省総合政策局, FF-DATA (訪日外国人流動データ) http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/sogoseisaku_soukou_fr_000022.html
- [4] E-NEXCO Drive Plaza [訪日外国人限定] Japan Expressway Pass, http://www.drivplaza.com/trip/drawari/japan_expass/
- [5] Japan-Guide.com, <https://www.japan-guide.com/>
- [6] Rebecca Milner, Ray Bartlett, Andrew Bender, Craig Mclachlan, Kate Morgan, "Lonely Planet Japan" (2017), pp. 896-903.